

平成27年度「不登校に関する研修会」講義記録

第5回：平成27年11月4日（水） 姫路市市民会館

テーマ「発達障害が疑われる子への支援と学級づくり」

講師：曾山 和彦（名城大学 教授）

〈はじめに〉

学級における安心感はとても大事である。教師は、診断はできないが、教育的な判断ができる。今の子どもたちの姿を見ると、支援の方向性が見えてくる。

1 現代の子ども像と支援の基本方策

自尊感情とソーシャルスキルがキーワードとなる。

- ・自尊感情（セルフエスティーム）…自己肯定感と捉えるとよい。
良いところはたくさんあるのに、「どうせ」という子どもたちの自尊感情はボロボロ。
自分を大切にできなければ、他者はなおさら大切にできない。
- ・ソーシャルスキル…他者とかがわる技術・コツ。これがないと、他者を大切にできない。
- ・この二つが落ちている理由 → 家庭、地域の教育力が落ちているため、昔のようにはいかない。
人と関わる場面が減っているから。人が人になるには人との関わりが必要。
- ・どちらも人との関わりの中でしか育たない
→ 学校存在の意義がここにある。学校は、人を人にする最後の砦。

2 教室でできる特別支援教育

子どもたちの自尊感情・ソーシャルスキルが乏しいため、学級の気になる子の存在がクローズアップされてしまう。気になる子だけでなく、全体を上げていくために周りの子を育てる。

STEP1・2によってユニバーサルデザインの授業づくりが可能となる。これは、特別な支援が必要な子には必要であるし、それ以外の子にも邪魔にならない。言葉はスリムなほど、伝わりやすい。

(1) STEP1 気になる子の理解

ア 発達障害の可能性のある子の理解は欠かせない。

6.3%(2002)→6.5%(2012) ※平成19年度より特別支援教育という名称→対象障害の広がり

イ 障害理解&支援の基本理論を押さえてはじめて、個に応じた具体的な支援策が見えてくる。

I thinkの前に、理論が必要。理論があって整理することで、考えの幅が太くなる。

ウ ASD（自閉症スペクトラム障害）支援への王道

- ・視覚情報を活用する（フォトグラフィックメモリー）。一度にひとつ（短期記憶の弱さ）。予定を伝達する（見通しの持ちにくさ）。
- ・肯定的表現を用いる（否定的表現は苦手）。その子の文化に寄り添う（感覚過敏、言葉通りに捉

えやすい など)。

(2) STEP 2 学級集団の理解 (学級はどの子にも居場所となっているか)

「ルール」と「ふれあい」の2本柱

・ルールは伝えられる。ラポート (ラポール) づくり。プラスとプラスの信頼関係。浅い細い糸でのつながり。(付き合い始めた男女の関係に似ている)

・ふれあい (リレーション) は、マイナスの感情も言える関係。No が言え、No を言っても受け止め合える関係。切れない太い糸でのつながり。縦と横両方の関係。(夫婦、親友の関係)

全てにおいて「学級の状態」がとても大切である。学級づくりは「居場所づくり」の作業。使えるものは何でも使う。

●演習: アドジャン (足し算じゃんけん) = 0~9 の設定されたお題。みんなで出した指の数を足して、その数字のお題に皆が答える。

子どもたちは「遊び」のつもりでいるが、指導者にはねらいがある。SST・SGE の立ち位置もある。次の二つは、同じようでも立ち位置が違う。

・SST (ソーシャルスキルトレーニング) 教えることがなじむ技法

= 行動の教育: 挨拶、話の仕方、話の聴き方…ゲームのように

・SGE (構成的グループエンカウンター) 教えることがなじまない技法

= 感情の教育: 自他理解…井戸端会議のイメージ。自分に出会う。他者に出会う。(振り返りの時間を設けることで、個々の気づきを促す)

(3) STEP 3 全ての子の自尊感情とソーシャルスキル育成

ア SST やSGE を活用する。

イ 伝わる言葉をかける (カウンセリング理論による)。

プラスもマイナスも共通した言い方→アイ・メッセージ。(「~してくれて、私が嬉しい。~すると、私が困る。」)

「褒めて育てる」という落とし穴→もっと、褒めて。(褒められないとしない)

思春期には効かない

ウ 「思春期」(「第二性徴の発現」から身長伸びが止まるまでの期間) を理解する。

思春期の子どもは、「揺れている船」に乗り、海に投げ出されている状態。その子を助けに行く大人でありたい。浮き輪 (= 知識・技能) を投げるために、大人 (親、教師) は学んでいる。

・「いいところ探し」= 当たり前と思えることも貯めておく。貯めた「いいところ」を使って言葉をかける。かける言葉に迷ったら「ありがとう」。

・「対決アイ・メッセージ」= 行動→影響→感想の順で、私が困っていること、嫌なことを伝える。

・「リフレーミング」= 枠の再構成。見方を変える。短所と感じることを長所に変える。

例: 優柔不断→しっかり考える おしゃべり→言葉をよく知っている

・「例外探し」= うまくやれていること「例外」はきっとある。「今のは、よかった」

例外がうまれた訳に支援のヒントがある。これを増やしていく。

〈終わりに〉

軌跡が奇跡を生む。学び続けることは「職業倫理」である。今、見ている景色を楽しむ余裕を持つ。